

# 造林作業の安全対策について

岡崎営林署 水野 秋 一

## 1. はじめに

造林事業における安全については、以前にも数多くの考案がなされて来ました。大切な事は、だれにでも簡単に出来、使用が楽な事がだいじだと思ひ今回鎌の柄折れ防止、及び、鎌カバーの改良により、下刈や、除伐等造林作業につきものと考えられている損傷や保護、また、蜂による怪我を防ぐための防蜂網試作について発表します。

## 2. 防蜂網について

夏季の造林作業では必ず蜂による被害が出ており、300事故通報でも毎回の様に報告されています。この被害を防ぐための防蜂網についてはこれまでに、熊本営林局や、東京営林局でいろいろ工夫されているようです。東京局のものについては、詳細に承知していませんが、今回私がヒントにしたものは、熊本局のもので、これでは耳の後部にすき間が生じ、そこから蜂が入るように思われました。そこで私は、首から上は全部網でつまれるように工夫しました。使用した網は、網目1cmの養蚕用あみで、大きさは、30cm、40cm、50cmと、3種類を試作しましたが、あまり長いと顔に網がふれ効果がない事がわかりました。これを使用した結果は完全に首から上を蜂から守る事が出来ました。又、色による使い易さについては、赤、白、黒の三種を作ってみました。赤と白は目に刺激が強く目が疲れ易い。黒が一番無難なようでした。また使用しない時は簡単に取りはずしポケット又は保安帽の中に入れる事が出来ます。

## 3. 鎌の柄折防止について

下刈や、除伐等の作業中に鎌の柄が折れて鎌の刃先が飛んでハットする事が時々あります。その原因は、柄の材質が一番の理由かと思ひます。柄もカシ、ナラ等は丈夫なもので作られていた頃はめったに柄が折れることはありませんでしたが、ねばりのない外材で柄が作られるようになってからは、時々折れることがあります。これを防ぐために柄を丈夫なものに代えるのが一番ですが、経費等の関係から簡単にできません。そこで柄の損傷を防ぐと共に柄が折れても刃先が飛ばない方法を考えるべきだと思ひ、鎌の新しいときに長さ30cm、幅12cm、厚さ0.3mm、重さ60gの平トタンを、柄止め釘の付近に巻き小さい釘で止めて使用したところ、柄の損傷や、折損がほとんど無くなりました。参考までに平トタンを鎌の柄に巻くのに要した費用は1枚20円程度でした。

#### 4. 鎌カバーの改良について

鎌カバーの脱着には現在長さ1.6 mのヒモが付いていて、鎌からカバーが外れない様にぐるぐる巻きつけるようになっていました。この長いヒモを巻いたり、はずしたりする事はなかなか面倒で、時々鎌カバーを外したまま鎌を持ち運ぶ不安全行動が見受けられます。又使用しない時はカバーを腰に付けたり、ズボンのポケット等に入れたりする事が多く、長いヒモが枝条等に引掛かりヒモが切れたり、カバーを落したりして、山ではこの長いヒモが邪魔になる場合が多い。そこでこの長いヒモのかわりに簡単にカバーを付けるものはないかと、次の三つの方法を考えてみました。第一はカバーの脱着をワンタッチで出来るようマジックテープを取り付けて見ました。これはカバーの脱着は非常に簡単でしたが、マジックテープに落葉等のゴミが付着すると、マジックの用を足さず使いものになりませんでした。

二番目はチャックを取り付けて見ました。カバーの脱着はマジックの場合と同じ容易にできるが、雨などでぬれた時にはチャックの開け閉めがスムーズに出来ない難点があります。

三番目は、40cmのゴム紐に金具を取り付けゴム紐の両端をカバーに縫い付けゴムの伸縮を利用して巻き付けるもので、カバーの脱着については前の寸法とそれほど大きな違いはなく、また落葉や雨等によって使い易さが左右される事も無く、三つの方法の中ではゴム紐が一番良いと思います。

参考にカバー1個分の材料費は

一番	マジックテープ	30円程度
二番	チャック	80円程度
三番	ゴムヒモ	20円程度

#### 5. ま と め

以上造林作業を行っている中で気の付いた小さな工夫を紹介しました。

どれも安全対策の切り札に成るようなものではありません。しかしどんな小さなものでも一つ一つ積み重ねる事によって、安全と言う大きな成果に結びつくものと考え、今後地道な努力を続けて行きたいと思っています。